



川が、岸をどこも同じようにけずらないのは、どうして

水の流れの速さに、ちがいがある

川は、ふつう、少し曲がって流れています。川岸がよくけずられるのは、川の曲がり角の外側です。

川の曲がり角の外側の水の流れは、内側に比べて速いので、川岸をよくけずります。そして、曲がり角の外側は、川の水がぶつかって川岸をけずるので、がけのような切り立った岸になっていて、川底も深くなっています。

これに対して曲がり角の内側では、川底が浅くなっていて、小石や砂が積もって、川原になっています。

この曲がり角の内側で、川原になっているのは、水の流れがおそくて、水のけずるはたつきが少なく、上流から運んできたものを、積もらせるからです。

岸をつくっているもののちがいにもよる

川岸には、けずられやすい岸と、けずられにくい岸があります。それは、岸がかたい岩でできているのか、土でできているのかの、ちがいにもよります。

ふつう、岩でできている岸はけずられにくく、土でできている岸は、けずられやすいので、岸は同じようにはけずられないのです。（監修・国司 真）

